



2026 年 7 月 15 日

各 位

会 社 名 Green Earth Institute 株式会社
代表者名 代表取締役 CEO 伊原 智人
(コード番号：9212 東証グロース)
問合せ先 取締役 CFO 管理部長 浦田 隆治
(TEL 03-5315-0531)

中長期ビジョン策定に関するお知らせ

当社は、「中長期ビジョン」を策定し、2026 年 7 月 15 日開催の取締役会において決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 中長期ビジョン策定の背景・目的

当社は、設立以来、微生物や酵素を活用したバイオものづくり技術の研究開発に取り組み、その成果の社会実装を推進してまいりました。

近年、脱炭素化の進展、エネルギー安全保障の重要性の高まり、並びに持続可能な原料への転換需要の拡大を背景として、バイオものづくり市場は世界的に成長しており、今後、更なる拡大が期待されています。

このような事業環境のもと、当社はこれまで培ってきた研究開発力を競争優位性の源泉としながら、研究中心のフェーズから商業生産・事業拡大のフェーズへ移行することを見据え、中長期ビジョンを策定いたしました。

本ビジョンでは、「石油から、バイオへ。世界を塗り替える。」をテーマに掲げ、「研究の GEI」から「稼ぐ GEI」への転換を図るとともに、技術開発から製造・販売までを一貫して担う「統合型産業プラットフォーム」の実現を目指してまいります。

2. 中長期ビジョンの詳細

本開示資料に添付しております「中長期ビジョン 〜バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォームを目指して〜」をご参照ください。

また、当社ホームページ (<https://gei.co.jp/ja/>) に、中長期ビジョン（動画）も掲載しておりますので、あわせてご確認ください。

以上

From **Petroleum To Bio.**
Bio-manufacturing changes the **world.**

石油から、バイオへ。
世界を塗り替える。

中長期ビジョン

～ バイオものづくりにおける統合型産業プラットフォームを目指して ～

目次

01 エグゼクティブサマリー

第2創業の幕開け | P. 03

02 市場環境

バイオものづくりとは・必要な理由 | P. 04–05

03 ビジネスモデル

2階建ての成長エンジン・3つの事業セグメント | P. 06-07

04 中期経営計画

目指す姿・目標数値・成長カーブ | P. 08–10

05 成長戦略

満たせる空白・ターゲット産業・日本展開・東南アジア展開 | P. 11–14

06 株主・投資家へのコミットメント

第2のIPO・株主還元 × コミットメント | P. 15–16

07 FINAL MESSAGE

The Future is Green. | P. 17

01 — エグゼクティブサマリー | 第2創業の幕開け

GEI「第2創業」の幕開け。

「研究のGEI」から「**稼ぐGEI**」として、
バイオものづくりにおける**統合型産業プラットフォーマー**を目指します。

01

卓越した研究開発力

地球環境産業技術研究機構（RITE）時代からの
30年以上の研究開発の経験と実績

02

2階建ての成長エンジン

2F：夢のエンジン（バイオ燃料エネルギー革命）
1F：稼ぐエンジン（バイオ製品＋バイオ燃料）

03

ディープテック×キャッシュ

多くのディープテック企業が収益化に時間を要する中、
「**3つの数字**」で**キャッシュ創出力**を証明する稀有な存在

02 — 市場環境 | バイオものづくりとは

「石油依存」という常識を、ひっくり返す。

バイオものづくりとは「微生物や酵素の機能を活用し、燃料・化学品・素材を持続可能な形で生産する技術体系」のこと。



次世代の脱炭素。石油やトウモロコシを燃料にする時代は終わりました。

02 — 市場環境 | 必要な理由

世界が、GEIを必要とする理由。

構造的な追い風は、**石油依存の限界**と**次世代産業の必然**の両側から吹いています。

石油依存の限界

石油に依存し続けられない、3つの圧力。

01 地政学リスク

世界各地の紛争による、石油確保の不安定化。サプライチェーンの再構築が急務。

02 産業界の投資圧力

主要企業のカーボンニュートラル宣言、機関投資家のESG圧力、欧州CBAMの広がり。

03 政策・規制の後押し

GX推進法・カーボンプライシング・SAF義務化（EU 2025～、日本 2030～）。

次世代産業の必然

バイオが選ばれる、3つの必然。

04 非可食バイオマス

食料危機を招かない、究極のバイオ原料。食料と競合しない「木質バイオマス・農業残渣・古着等」を価値ある資源に。

05 バイオ由来品の優位性

CO₂を吸収する原料、循環型サプライチェーン。従来化学品と同等以上の付加価値。

06 巨大な置き換え市場

化学品 世界5兆ドル超・プラスチック 年4億トン超・SAF 2050年20兆円市場。

03 — ビジネスモデル | 2階建ての成長エンジン

勝機を逃さない「2階建て」の成長エンジン。

1Fで確実に収入を確保し、その筋肉質な利益で2Fの「世界を変える挑戦」を加速させる。

2F

バイオ燃料エネルギー革命

国家プロジェクト規模のエネルギー革命。
圧倒的スケールで世界市場にチャレンジする「夢のエンジン」。

成長性

巨大市場×世界的なエネルギー革命

1F

バイオ製品＋バイオ燃料

化粧品原料、食品添加物、香料など＋航空燃料（SAF）・バイオエタノール。
大手メーカーとの協業で、早期にキャッシュを生み出す「稼ぐエンジン」。

堅実性

早期キャッシュ獲得

確実な収益 × 巨大な夢 — GEI独自の必勝ポートフォリオ。

03 — ビジネスモデル | 3つの事業セグメント

3つの事業セグメントで社会実装を推進。

バイオものづくりのバリューチェーン全体をカバーする、3つの事業セグメント。

開発型 バイオフィアウンドリ

パートナー企業から開発を受託。微生物・発酵プロセスを設計し、**開発費**を獲得する基盤事業。

▶ 既存事業の進化

生産型 バイオフィアウンドリ

設備を持たない事業者向けに、自社で**バイオ製品を生産・販売**。垂直統合で利益率を向上。

▶ 中期計画の主役

テクノロジー パッケージ

設計・スケールアップノウハウを**ライセンス・パッケージ販売**。ロイヤリティで収益化。

▶ 高収益の柱へ

04 — 中期経営計画 | 目指す姿

目指す姿は、統合型産業プラットフォーム。

VISION

目指す姿

最終形態

バイオものづくりにおける

統合型産業プラットフォーム

LONG-TERM

中長期ビジョン

2032/9～

収益の安定性と成長性を両立する事業基盤の拡大

- ・技術開発から製造・販売までを統合した価値創出
- ・複数製品によるポートフォリオ経営
- ・パートナーとの共同事業（JV・ライセンス）による拡張

MID-TERM

中期経営計画

2027/9 – 2031/9

▼ 3つの事業セグメント

開発型
バイオフアウンドリ

生産型
バイオフアウンドリ

テクノロジー
パッケージ

04 — 中期経営計画 | 目標数値

ディープテックが、キャッシュを生む。

多くのディープテック企業が収益化に時間を要する中、GEIは「3つの数字」で**キャッシュ創出力**を証明する稀有な存在。

3つの数字は、2027年セミコマーシャルプラント稼働 → 2030年コマーシャルプラント稼働 → 2031年から世界展開本格化で段階的に積み上がる。（1F単独／2Fは本計画に含まれない上振れ要因）

1F

売上高の継続的な拡大

2,561

百万円（2031.9期目標）

2027/9計画比 **213.0%**

大手ユーザー企業との権利収入を基盤に一気に拡大

1F

営業利益の黒字化

334

百万円（2031.9期目標）

2F投資への**自己資金確保**の初手となる黒字化

1F

EBITDA の大幅改善

650

百万円（2031.9期目標）

EBITDAマージン **25.3%**

2F大規模投資に耐えるキャッシュ創出力

2F

3つの必須条件をクリアし、2F「夢のエンジン」を稼働させる。

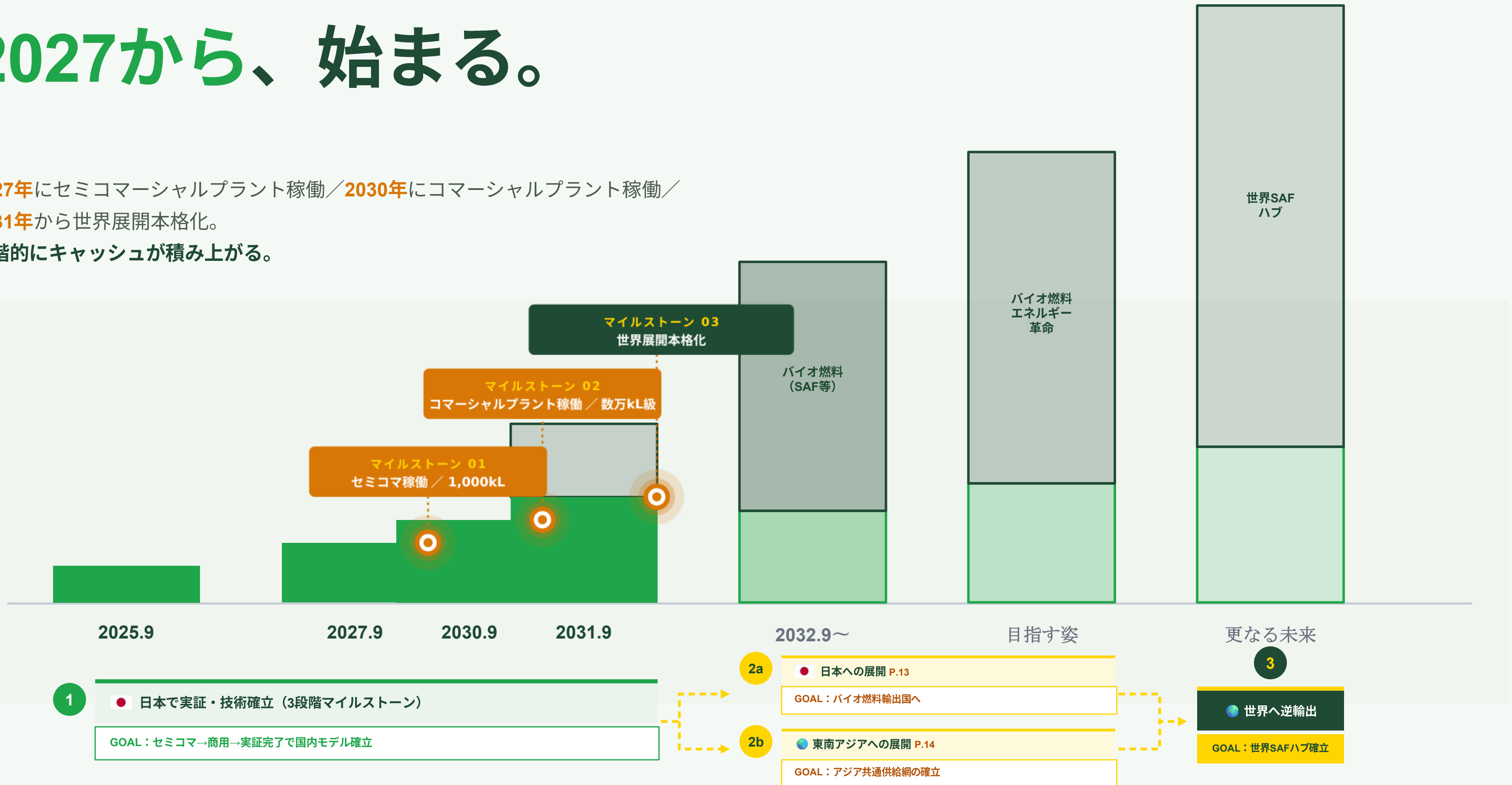
→ この3つの数字はゴールではなく、バイオ燃料エネルギー革命へのスタートライン。

04 — 中期経営計画 | 成長カーブ

2027から、始まる。

2027年にセミコマーシャルプラント稼働／2030年にコマーシャルプラント稼働／
2031年から世界展開本格化。
段階的にキャッシュが積み上がる。

■ バイオ製品 ■ バイオ燃料（SAF等）



05 — 成長戦略 | 満たせる空白

なぜ、GEIなのか。

日本のバイオものづくり産業には、設備を持つ「受託製造事業者」が不足。GEIがその空白を埋める。

01

30年以上の 研究開発実績

地球環境産業技術研究機構（RITE）時代からの研究開発力が生み出す、卓越したバイオものづくり技術。

02

ラボから商用まで "一気通貫"

微生物設計から3,000L発酵槽でのスケールアップ実証、テクノロジーパッケージ提供まで自社で完結。バイオものづくり企業で類を見ない総合力。

03

国策の追い風と 大手提携

日本製紙・住友商事・日本航空・大王製紙・住友林業・J-POWER等、業界大手との提携多数。
NEDOなどの国プロに採択。

05 — 成長戦略 | ターゲット産業

高付加価値領域と汎用領域を狙う。

生産型バイオファウンドリとテクノロジーパッケージで、高付加価値領域と汎用領域の両方をカバー。

高付加価値領域

生産型バイオファウンドリ

単価

kg単価 1,000～10,000円超

製造スケール

～数十トン

主なターゲット産業

化粧品原料

食品添加物

香料

2026年6月末時点の進捗状況

化粧品原料等で**4製品**、食品添加物で**3製品**、飼料添加物で**3製品**の生産を検討中。

汎用領域

テクノロジーパッケージ

単価

kg単価 100～1,000円

製造スケール

数百トン～

主なターゲット産業

エネルギー

ジェット燃料

化学工業

2026年6月末時点の進捗状況

木質バイオマス由来のエタノールが**2PJ**、OPT由来のバイオエタノールが**1PJ**が稼働中。

05 — 成長戦略 | 日本への展開

日本を、原油輸入国からバイオ燃料輸出国へ。

GEIが取り組む**木質バイオマス由来エタノール**を、国家プロジェクトとして立ち上げる。
日本の足元に眠る「森林資源」を、世界に売り出す「**国産エネルギー**」へと変える挑戦。

日本＝世界有数の
「資源輸入大国」

99.7%

原油の海外依存度

出典：経済産業省・資源エネルギー庁

66.0%

国土に占める森林率

＝未活用の巨大バイオマス資源



2a GOAL：バイオ燃料輸出国へ

日本＝世界に売り出す
「バイオ燃料輸出国」

1,000 kL

2027年 セミコマーシャル稼働
＝商用化への試金石

数万 kL級

2030年 コマーシャルプラント稼働
＝国産エネルギー供給開始

数百万 kL級

国策エネルギー拠点
＝バイオ燃料輸出国へ

国家への
3つの貢献

01 エネルギー安全保障

海外依存からの脱却

地政学リスクから国家を守る、国産燃料の確立。

02 地方創生

林業再生 × 雇用創出

国土の66%を占める森林を、地方の新たな成長資源へ。

03 GX国際競争力

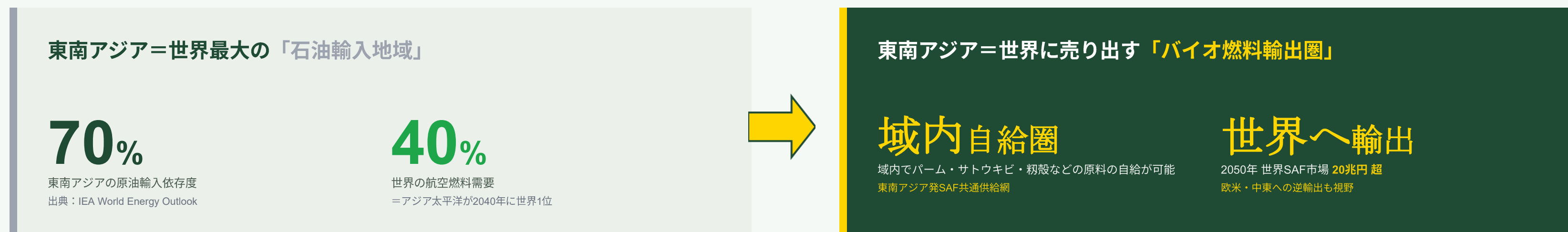
SAF市場で世界をリード

非可食バイオマス由来。食料と競合しない次世代燃料。

05 — 成長戦略 | 東南アジアへの展開

東南アジアの原油依存を、バイオが解き放つ。

日本一国から、東南アジア全域スケールへ。世界SAF市場20兆円へ向け、日本→東南アジア→世界の3段階戦略。



ROADMAP — 3段階の東南アジア攻略戦略

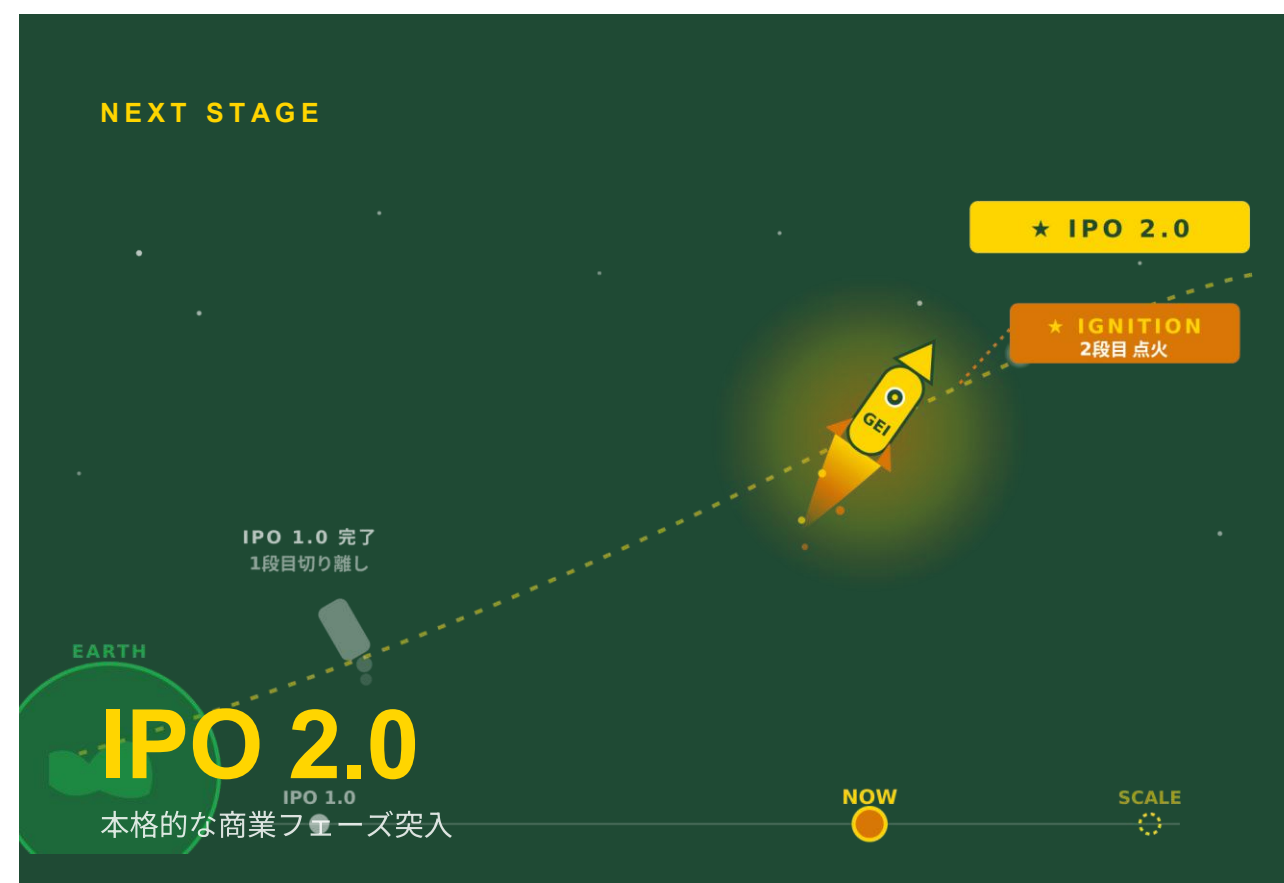


日本発の技術 × 東南アジアの資源 — 世界SAF市場20兆円のハブになる、GEIの3段階戦略。

06 — 株主・投資家へのコミットメント | 第2のIPO

東証スタンダード移行「第2のIPO」へ。

「研究のGEI」から「**稼ぐGEI**」として、本格的な商業フェーズに突入します。



1

市場信頼性の向上

スタンダード市場への移行により、今まで以上に多くの個人投資家・機関投資家と向き合います。

2

流動性の改善

積極的な個人投資家IRを行い、出来高を伴う「**正当な株価形成**」を実現します。

3

本格的な商業フェーズへ

「研究のGEI」から「**稼ぐGEI**」として、スタンダード市場でその実力を証明します。

今は「成長への再投資」。だからこそ約束する。

SHAREHOLDER RETURN

株主還元方針

現在の配当

0円（無配）

現時点では、事業の成長と商用化への再投資を最優先。企業価値の最大化に集中します。

▶ 将来の方針

業績・財務状況を勘案しながら、配当実施について検討。実施時期は未定。

OUR COMMITMENT

株主・投資家への約束

1

中長期的な企業価値の最大化

目先の還元より、2F「夢のエンジン」を含む持続的な企業価値向上に集中。

2

透明性の高い情報開示

リスクも進捗も率直に。適時・適切なディスクロージャーで市場信頼性を積み上げる。

3

積極的な対話（IR強化）

個人投資家向け説明会・機関投資家との対話を積極展開。株主とともに企業価値をつくる。

07 — FINAL MESSAGE

The Future is Green.

GEIの新章が、ここから始まります。

-
- 01 石油依存を、ひっくり返す。
 - 02 卓越した研究開発力
RITE時代からの30年
 - 03 2階建ての
成長エンジン
 - 04 ディープテックが、
キャッシュを生む
 - 05 IPO 2.0
「稼ぐGEI」への転換

お知らせ（1 / 2）

個人投資家向け中長期ビジョン説明会

本日のお話の続きは、ぜひ説明会で。経営陣に直接ご質問いただける機会です。

開催日

2026.07.27
(月)

主催

みずほインベスター・リレーションズ株式会社

お問い合わせ・
お申し込み



下記URLよりお申し込みください

<https://j-iris-irm.smarkt.jp/public>

「石油から、バイオへ」の挑戦を、ぜひ続きの説明会で。

お知らせ（2 / 2）

機関投資家向け中長期ビジョン説明会

機関投資家の皆様には、約1ヶ月間にわたる個別ミーティング期間を設けております。

開催期間

2026.07.16 ~ 2026.08.14

約4週間の個別ミーティング期間

主催

Green Earth Institute 株式会社

お問い合わせ・
お申し込み



下記URLよりお問い合わせください

<https://gei.co.jp/ja/contact.php>

経営陣と直接対話の場をご用意しています。

DISCLAIMER

免責事項および将来見通しに関する注意事項

1 本資料の位置づけ

本資料は当社の企業説明に関する情報提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘する目的で提供されるものではありません。本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものでなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についても何ら補償するものではありません。

2 将来見通し情報（forward-looking statements）について

本資料ならびに本発表において提供される情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

3 リスクおよび不確実性

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

4 本資料の更新義務

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合でも、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。